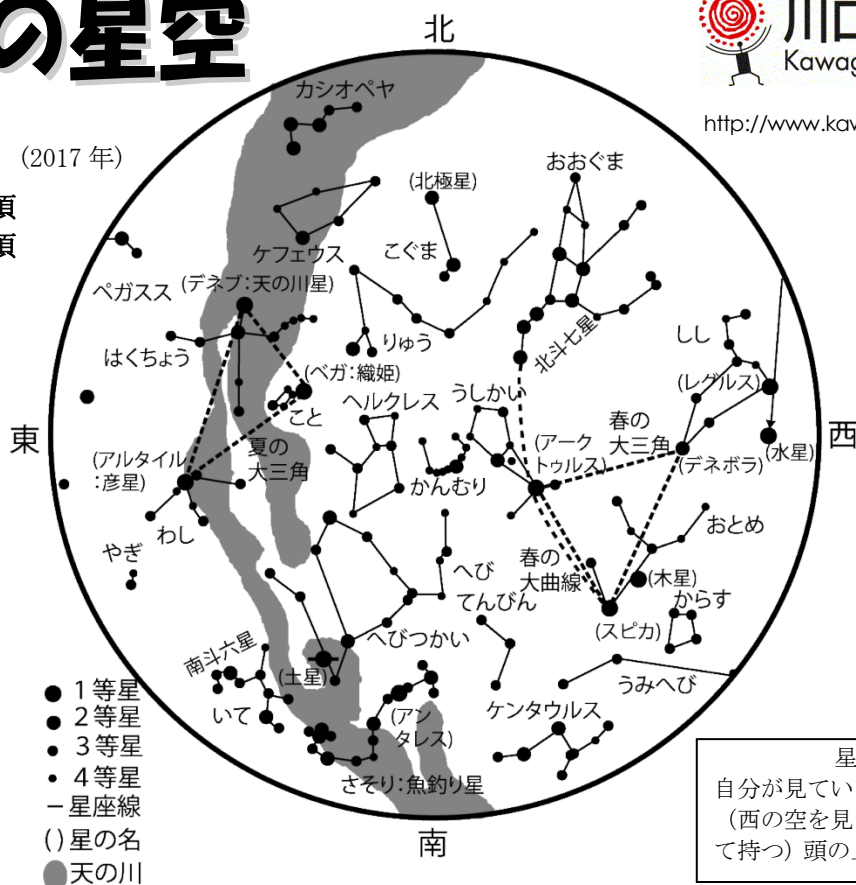


今月の星空

7月 (2017年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



月 齢	● 上弦 1 日、○ 満月 9 日、◐ 下弦 17 日、● 新月 23 日、◑ 上弦 31 日
惑星情報	水星 夕方 西 (かに座 → しし座 -1 → 1 等級) (10 日から 31 日まで)
	金星 明け方 東 (おうし座 → オリオン座 -4 等級)
	木星 夕方 南西 (おとめ座 -2 等級)
	土星 夕方 南東 → 南 (いて座 → へびつかい座 0 等級)

★七夕 (7日)

日本では、「こと座」のベガは「織姫 (おりひめ)」、「わし座」のアルタイルは「彦星 (ひこぼし)」として知られています。7日は、この2人が1年に1度、天の川を渡って会うことができるとされる七夕です。晴れていたら、夜空を見上げてみましょう。ただし、まだ梅雨空のことが多く、見ることは難しいかもしれません。本来、七夕は旧暦7月7日の行事で、今年は8月28日にあたります。この頃は、天気が良く2つの星を見つけることができるでしょう。

★夏の星座が見ごろ

南の空にある「さそり座」は、1等星のアンタレスを中心にS字型に星が並んでいます。日本では、このS字を釣り針に見立て、「魚釣り星 (うおつりぼし)」と呼んでいるところがあります。また、ポリネシアの人々も同じように、釣り針と見ていました。7月、8月のプラネタリウム・キッズアワー (7月2日を除く) では、ポリネシアに伝わるさそり座の物語「マウイの釣り針」を紹介していますので、ぜひご覧ください。

東の空高くにある明るい星は、「こと座」のベガです。そのまわりには、「わし座」のアルタイル、「はくちょう座」のデネブがあり、この3つの1等星を結ぶと、夏の三大角ができあがります。デネブは「天の川星 (あまのがわぼし)」と呼ばれていました。その名の通り、ここには天の川が見られます。

★月が木星、土星に見かけ上、次々と接近

月を毎日同じ時刻に観察すると、位置が西から東にずれていきます。そして、約1か月で元の位置に戻ります。これは、月が約1か月かけて地球の周りを反時計回りに (北極の上空から見て) 回っているためです。1日に木星、7日に土星、そして29日に再び木星の近くを通り過ぎます。